

王座決定戦

出場チームは各リーグ1チームとし、原則各リーグ1位のチームとします。
上記のチームに代わり、同リーグチームの出場可とします。その選抜は各リーグで決定して下さい。
各試合棄権の場合は、試合前日までに事務局までご報告お願ひします。その場合は
相手チームは不戦勝となります。
第一回戦は当日まで、チーム変更可とします。その場合、事務局まで報告お願ひします。
王座決定戦の組み合わせ及びスケジュールは別に示す、トーナメント表によります。

2014大会出場チーム数 12チーム

2014年大会日程 予選リーグ戦（3チーム×4グループ） 11月2日（日）～11月23日（日）
決勝トーナメント・準決勝戦 11月 30日（日）
決勝トーナメント・決勝戦 11月 30日（日）

2014年出場枠 各リーグ1チーム + 昨年度ベスト8付属チームのリーグとします。
トーナメント構成上、空枠が発生した場合、昨年度の成績等、リーグチーム数を考慮し、
事務局が決定します。
※王座決定戦の出場枠はあくまで1リーグ1チームが原則ですが、トーナメント構成上
空枠が生じることがあります、その場合の出場枠の優先順位です。
優先順位は、公平と思えるように事務局にて、チーム数含め決定いたします。
シードが生じた場合も同様にて決定します。

2014予選リーグ 1グループ3チームの4グループで行います。
1グループ3チームでの総当たり戦（各チーム2試合）。
順位は勝率で決定し、1位チームが決勝トーナメントに進出。
同勝率の場合は、以下に順にて決定。得失点差、得点率、当事者間の成績
(全て同率の場合は再試合とします。)

大会ルール

同一所属リーグチーム間の試合は、所属リーグのルールを適用可とします。その他の試合は、
日本野球連盟（プロ野球）・パシフィックリーグ（投手のみ指名打者制）を採用する。（指名打者制採用無しも可）
試合イニングは、7イニング制とします。
試合は大会指定の時間内制限とし、5イニング終了で試合成立、不成立は再試合とします。
時間内延長戦有り、予選リーグは引き分け有り。準決勝戦で時間内引き分けの場合9人ジャンケンで勝敗を決めます。
決勝戦の引き分けは再試合とします。
試合時間の制限等は、各試合前に関係者から指示します。
得点差によるコールドは、所属リーグ間の試合は各リーグのルールを適用し、その他の試合は、
5イニング7点差以上を採用します。
試合会場（球場）の特別ルールは、関係者・審判の協議の上、両チーム代表者の承諾の上決定します。

●審判制
(違うリーグ間の場合) 原則は、球審のみの1審判制とします。
(場合により、球審・1塁審判・3塁審判の3審判制を採用)
準決勝・決勝戦は、球審・1塁審判・3塁審判の3審判制を採用します。（場合により四人制を採用）
2塁上の判定は、三塁審判を優先し、状況により三人審判の判断によるものとします。
※今般では、球審・二塁審判(2審判制)の導入が増えつつありますが、二塁審判の技量が問題となり、
(守備と重なる、打者から気になる等が生じるため)3審判制を基本と考えています。
又、2審判制の場合、1塁の判定、ライン際の判定、球審の三塁判定等に問題が生じます。
3審判制の場合、二塁上の判定のみが問題となります、三塁審判が二塁近辺に移動することで
充分補うことが可能ですが、大会の球審のみ、又は3審判制にご理解の上、ご協力よろしくお願い致します。

●その他ルール
(違うリーグ間の場合) ユニホーム全員統一着用のルールはありませんが、野手はなるべく着用お願いします。
バッテリーは背番号付きのユニフォーム着用をお願いします。
出場選手は各リーグ戦を戦った選手が原則ですが、助っ人は4人まで可とします。
助っ人はバッテリー禁止とし、打順は9番から降格順として下さい。
助っ人についてはあくまでも自己報告で、違反の場合、試合不成立等は
ありませんが、所属選手で勝利することに意義がある大会ですので、各チームの良識
におまかせいたします。
試合球は、公認A球 試合前に新球2個提出
試合前に打順表の交換を行い、できれば審判にも提出お願いします。
ファウルボールは攻撃側が拾い、紛失の場合攻撃側が補充し、試合後公平に分配
インフィールドフライの宣告が遅れた場合、ボールデットの場合等、判断が難しい状況等が
発生した場合は、両監督は審判に協力し指示に従うようお願いいたします。
又、対戦する相手チーム、審判には、共に敬意をもって試合を行い、試合中の暴言、
中傷するような事は避け、試合を円滑に行えるよう協力お願いします。
又、イニング間・選手交代・アウト間のプレーは敏速に行い、隠し球等遅延行為は避け
規定イニングまで円滑に終了できるよう御協力お願いいたします。

●指名打者制 指名打者制(DH制)を採用する場合は以下のルールとします。
・指名打者は、投手にだけ代わって打つ
・DH制を採用する場合は、試合前に相手チームと交換するメンバー表に記載する。
・DHに代打起用可とし、その打者がその後DHになる。（代走の場合も同じで、その後その代わりのDHも指名可）
・DHが途中投手になることは可とし、DHが他守備についてもDH制はなくなり、その場合DHの打順はそのままで、
これまで守備についていた選手の打順に投手が入る。
・投手が他守備についたらDH制はなくなり、その投手だった選手はDHだった打順にはいる。
・投手がDHの選手の代わりに打者になった場合、DH制はなくなる。
※まとめると、DHの選手は、途中投手にも他守備にもつけることができ、また、投手も途中他守備にもつけ、
打者にもなれます。